

目指す学校像	子ども達が嬉々として登校し、充実感に満ちて家路につく学校
--------	------------------------------

重点目標	1 よさを見つけ、認め、伸ばすことで、児童一人ひとりが達成感を味わえる教育活動の展開する。 2 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりと、セーフコミュニティの取組を通じた「自助・共助」の意識の育成を図る。 3 コミュニティ・スクールの取組を通じて、学校・家庭・地域の連携を深め、「オール大宮北小」の具現化を図る。 4 教師の指導力の向上を図り、「アクティブ・ラーニング」の視点で、学び方が身につく教育実践に取り組む。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標			年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 <全国学力・学習状況調査> ○国語、算数ともに全国、市平均と比べ10%以上良好な結果であり、特に、国語の「読むこと」+13.7%、算数の「変化と関係」+14.0%、「図形」+13.8%と大幅に全国平均を上回っている。 ○国語において、全国平均と比べ、「授業内容がよく分かる」+7.3%に対し、「国語の勉強が好き」-3.1%と授業は分かっているが、好きではないという割合が多い。 <市学習状況調査> ○3～6年生において学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ国語、理科が低く、社会が同じ、算数でやや高い。 〈課題〉 ○児童の学習への意欲向上のため、より一層魅力ある授業の実現が必要である。 ○引き続き基礎学力の定着を図ることが必要である。	・ICT機器の効果的な活用による授業改善 ・アクティブ・ラーニング型授業の推進	①学校課題研修において、「ICT機器の効果的な活用」をテーマとし、教職員を対象にICT機器の具体的な活用方法に関する研修の充実、効果的な活用方法の共有などを通じ、ICT機器活用を促進し、魅力ある授業の実現を図る。 ②スタディサプリ導入に向け、計画的に準備を進めるとともに、児童の活用促進に向け、教職員への教材の使用方法等の情報提供を行い、家庭学習の充実を図る。	①市学習状況調査、生活習慣に関する調査において、「国語、算数の勉強が好き」との設問への肯定的な回答の割合を前年度以上とする。 ②3年生以上のすべてのクラスにおいて、スタディサプリを使用した家庭学習が実施できるような準備、環境・運用方法の構築ができたか。	①「よい授業」アンケートにおいて、すべてのクラスの肯定的な回答の割合の前年度以上とする。 ②学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行い、指導法の工夫・改善に務め、分かりやすく楽しい授業を行った。」との設問への肯定的な回答の割合90%以上とする。				
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均を下回った。 ○昨年度、校内でけがをし、保健室で手当てを受けた児童の延べ人数は、647人であった。なお、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけがは0件であった。 〈課題〉 ○学校の魅力向上が求められるが、不登校児童は大変少ない。 ○7月より学校リフレッシュ工事が約2年以上に渡り実施されることから、児童の安全確保がより一層求められる。	・安心・安全で美しく整えられた教育環境づくり ・学校リフレッシュ工事に伴う施設等の適切な管理	①整った環境で居心地のよさを実感し、その環境を保とうという心を育てるため、月一回朝の「ピカピカタイム」や日々の清掃活動にしっかり取り組む。 ②安全点検の着実な実施と、危険個所確認時には、担当課や業者と連携を図り速やかに対応する。	①学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合90%以上とする。 ②危険個所認知日のうちに改善に向けた対応を行う。	①学校自己評価に係る児童・保護者・教職員のアンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合90%以上とする。 ②学校リフレッシュ工事に伴った安全点検体制の構築と実施。				
3	〈現状〉 ○昨年度、本校学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、3度実施し、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、児童・保護者・地域が児童を共有し、相互補完的に協働する素地をつくった。 〈課題〉 ○学校の様子を地域に発信していくうえで、学校Webページによるより一層の情報発信が求められる。 ○今年度は、コミュニティ・スクール元年として学校運営協議会を通じて、地域の関係機関及び団体等との協働体制を整え、学校を核とした地域づくりを進めていく。	・学校Webページ活用による情報発信 ・学校運営協議会の適切な運営	①本校Webページ、トップページに新たに週1回程度学校の様子を写真とともにつたえる「北小トピックス」を作成、継続的な更新を行う。 ②学校運営協議会及びPTAに関するWebページの内容充実を図り、保護者・地域が学校の活動への参加促進を図る。	①学校Webページの更新を週1回以上行う。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、「地域への情報発信」に関する項目への肯定的な回答の割合90%以上とする。	①学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、「学校は、地域の願い答えている」への肯定的な回答の割合90%以上とする。				
4	〈現状〉 ○昨年度、市教育委員会より、社会に開かれた教育課程「さいたま市小・中一貫教育」、「さいたまSTEAMS教育」の研究委嘱を受け、3年間の研究のまとめを終えた。 ○本年度は、自主研修としてICT機器の効果的な活用を中心に研究を進めている。 <課題> ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の結果を受け、児童の学習への意欲向上、魅力ある授業の実現に向けた方策を検討している。	・アクティブ・ラーニングの視点でICT機器を活用する指導力の向上	①外部講師を招いての講義を年3回実施し、指導方法の幅を広げる。 ②校内研修の中で「ICT活用実践交流会」を実施し、普段のICT活用方法、今後のICT活用方法等について学び合える時間を設ける。 ③校務用コンピュータ共有フォルダに普段のICT実践の写真フォルダを作成し、保存及び共有するシステムを構築する。 ④年17回の校内研修会において、感想、疑問・質問、提案を記録し共有できる「振り返りシート」を作成し、ICT支援員等が記載内容を受け、支援に結びつける。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合90%以上とする。 ②市のICT活用状況調査において、昨年度より利用時間を上回る。					

